

認知症の理解

認知症になっても暮らせる地域づくり



(公益社団)松原病院
(医)福井心のクリニック
(医)菜の花こころのクリニック(春江)
嶺北認知症疾患医療センター
福井市中央北包括支援センター(ホヤネット)
(公益社団)福井被害者支援センター
新老人の会福井支部事務局
(公益社団)認知症の人と家族の会福井県支部
松原六郎

そもそも認知症とは何でしょうか？



⇒ それは、脳の病気です。性格や気合、心持ちの問題ではありません。

- 認知症は、年を取ることで自然に起こる「もの忘れ」とは異なります。

→ 色々な原因で、脳の神経が減少し、脳の働きが悪くなったために、様々な障害が起こります。

そして、日常生活や社会生活に支障をきたす状態となります。

そもそも認知症とは何でしょうか？

- 高齢者の約5人に1人が認知症と推計されており、誰もが関わる可能性のある身近な病気なのです。



そもそも認知症とは何でしょうか？

料理がうまくできなくなった。

些細なことで怒りっぽくなった。性格が変わったみたい。

冷蔵庫の中に同じ食材ばかり？

慣れた道でも、暗くなると迷ったりする。

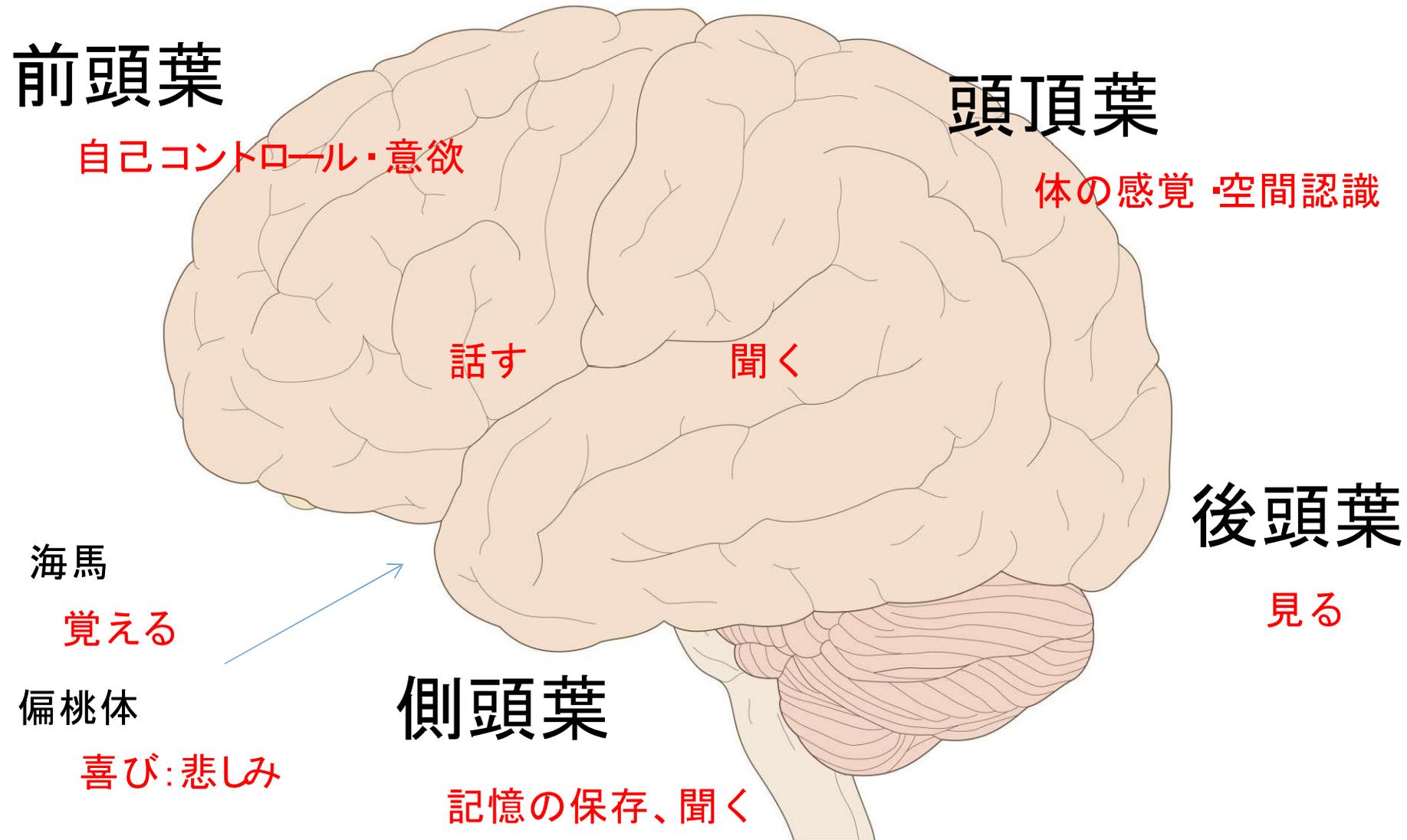
→認知症の症状は、覚えられなくなったという記憶の障害だけではありません。

そもそも認知症とは何でしょうか？

- 時間や場所が分からなくなったり、物事を考えたり(思考力)、判断すること(判断力)、計画を立て、段取りをすること難しくなります。

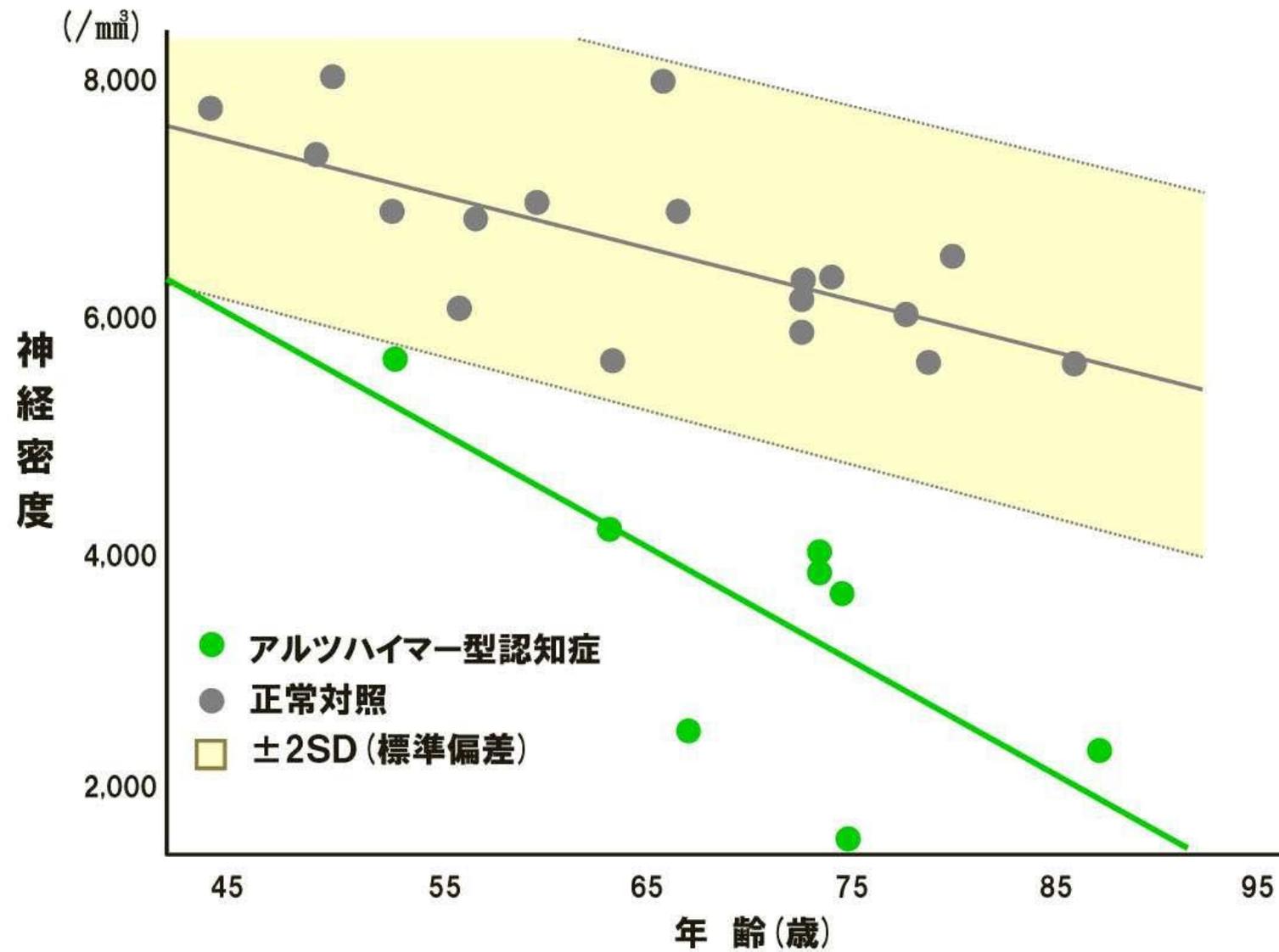


大脳のはたらき



神経細胞死

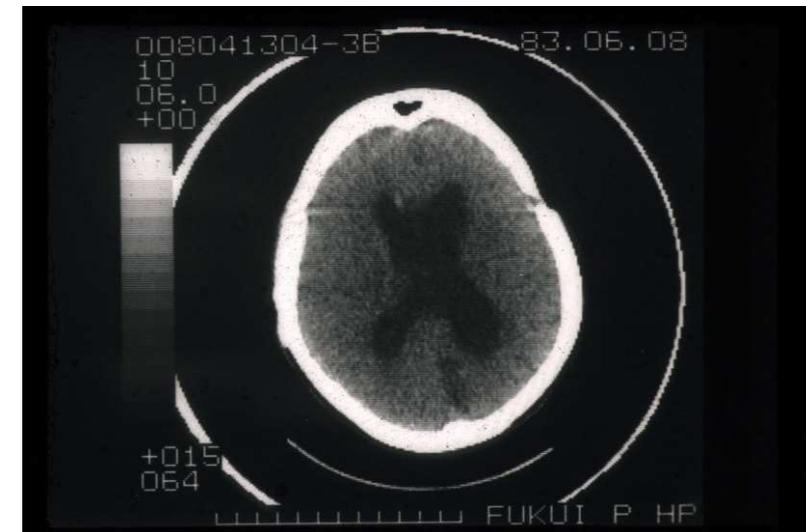
海馬神経細胞の生理的老化に伴う減少とADにおける減少の比較



認知症の種類と頻度

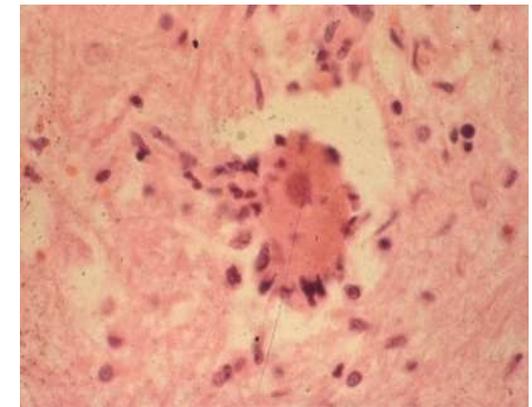
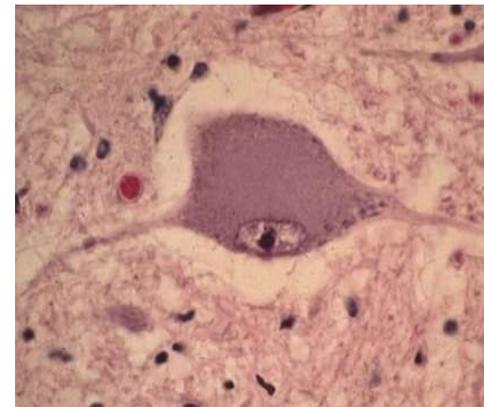
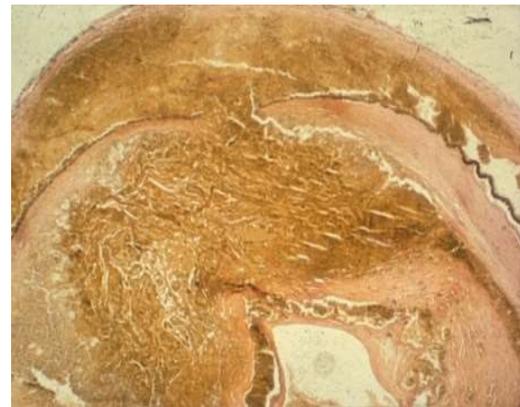
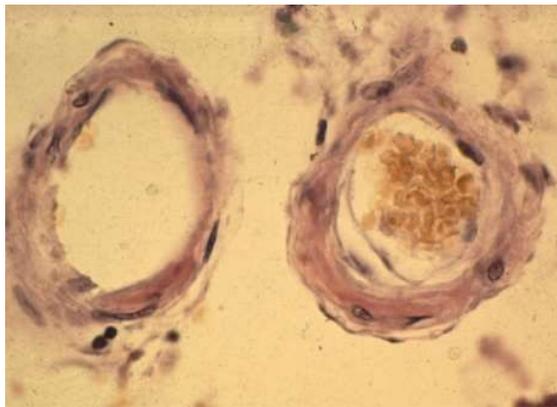
治せる認知症

- 頭蓋内占拠物による認知症
水頭症、血腫、腫瘍、膿瘍
- 脳の感染症
梅毒、結核種
- 内分泌疾患による認知症
甲状腺、副腎皮質



防げる認知症

- 血管性認知症
- 外傷性認知症
- 物質による認知症
アルコール、一酸化炭素中毒



レビー小体病

臨床症状の特徴

症状の進行がはやい

症状の良いときと悪いときの差が大きい

転倒しやすい

まぼろし(幻視)が多い

抗精神病薬が逆効果

ドネペジルが有効

前頭側頭型認知症の症状

特徴的な症状として

1. 身だしなみが無頓着
2. 感情鈍麻、自発性欠如
3. 抑制が欠如し、万引き、暴力
4. こだわり症状として、同じことを言い続ける、同じ動作(常同行為)、同じ食べ物、同じ道順
5. 初期には記憶障害は目立たない

滯続症状

Stehende Symtome

言葉の反復や行動の反復

6月20日 月曜日

この日、八ヶ岳の白馬村に

行くと、村に集まる人々の

この日、八ヶ岳の白馬村に

高橋と村に集まる人々の

この日、八ヶ岳の白馬村に

集まる人々の、高橋と村に

高橋と村に集まる人々の

高橋と村に集まる人々の

高橋と村に集まる人々の

高橋と村に集まる人々の

高橋と村に集まる人々の

高橋と村に集まる人々の

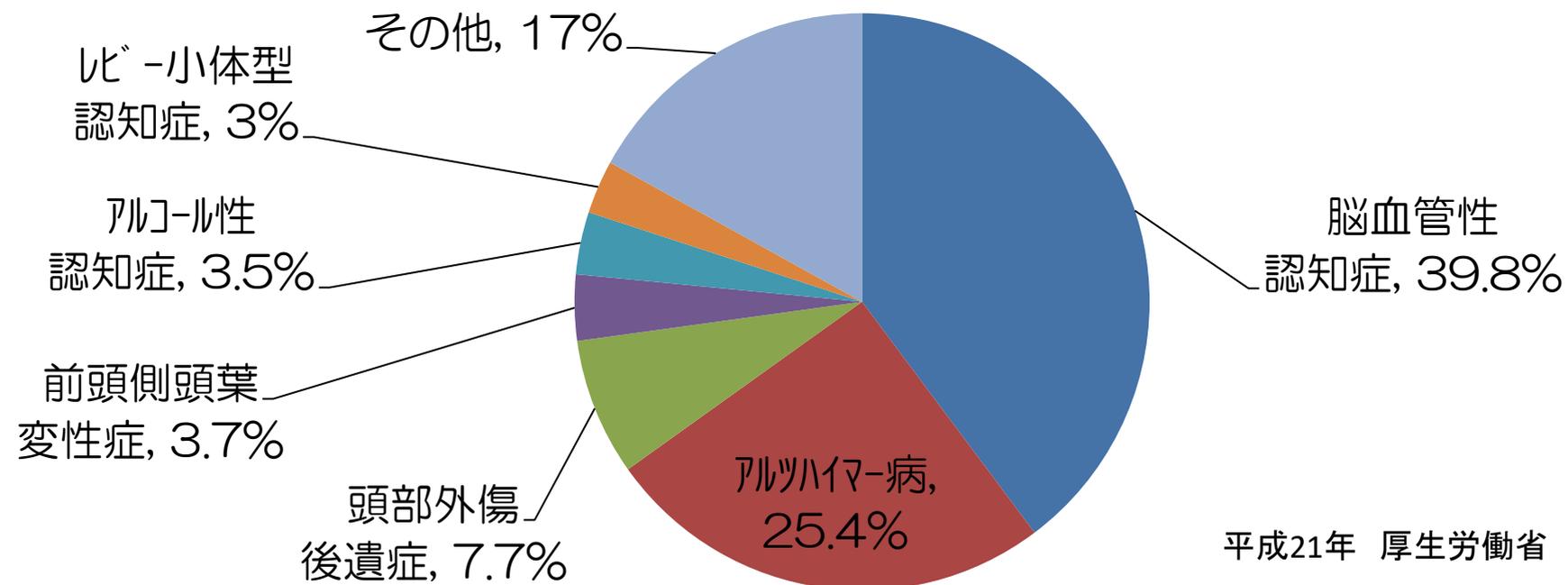
若年性認知症

若年性認知症

若年性認知症：65歳未満で発症した認知症

- 全国で37,800人と推計（平成21年）
- 今年度から3年間で全国的な調査を実施

若年性認知症の原因疾患別割合



若年性認知症の特徴

1. **現役世代**に発症する **男性**に多い、平均年齢は**51才**くらい
働いている(経済的問題)、子育て中 → **家庭内での課題**が多い
2. 今までと違う変化には気づくが、**受診が遅れる**
3. **体力や活動力**がある
一般のデイサービスでは対応しきれない
社会的活動ができる能力がある人が多い
4. **介護者の負担**
介護者は**配偶者**に集中しがち
時に**複数介護**になる
高齢の親が介護を担う

困った症状の成因

←心がそうさせる症状

脳障害がそうさせる症状→

性的逸脱行為 意

欲低下、過眠

せん妄

不眠、昼夜逆転

過食

幻覚、錯覚

盗られ妄想

強迫症状

うつ状態

不穏興奮、易怒性

不安焦燥

なにもすることがなくなった人 が取る反応

1. 心氣的 気持ちが身体にむく
2. 強迫的、常同的 気持ちや行動が同じ
ことを繰り返す
3. 被害的 他人に疑り深くなる
- 4 うつ 上記反応が崩壊したとき
5. 認知障害 不用症候群(廃用症候群)

認知症の人の世界

- 現実の世界がつかめなかつたり、スピードについていけない感じに襲われます

- ・・・見当識や判断力が薄れ、「誰、いつ、どこ、何」が分かりにくくなるため、周りで何が起きているのか、そのスピードについていけない、不可解や不安、緊張でいっぱいです。このため、何もしていなくても、消耗して疲れやすくなります。また、相手とうまく伝えあえないもどかしさや孤独も感じています。

認知症の人の世界

- 周りの世界が、自分の身体が、自分を脅かします

…ストレスに耐える力が低下するため、音、光、空間の広さ、空気の流れ等、ありふれた生活の刺激が、降り注ぐ矢のように感じられます。

また痛みや空腹、眠気、疲れ等、不快を感じても対処しにくくなっているため、その混乱や恐怖、怒りから激しい言動となったり、自分の世界に閉じこもる場合があります。

認知症の人の世界

- 自分自身が壊れていく 感じを抱きます
 - ・・・不安や混乱が起こりやすくなり、自分自身のことがよく分からなくなったり、気力が失せたりします。

新しいことは記憶になく、過去の大切な、焼き付いている記憶を点々とつなぎ合わせて、今まさにそれが存在するかのようにして、自分の世界を保とうとします

対応の基本

- 周辺症状は、より身近で、気を使わないで良い、ご家族に対して出やすいものです。
- 認知症の方は、認知機能は低下しても、感情は豊かです。

相手の怒りや苛立ちを敏感に感じ取って興奮したり、一旦生じた不快な感情が残って、不機嫌さが続くことが

あります。こうした不快な感情が、周辺症状で見られる問題行動のもとになると言われています。

対応の基本

- 周辺症状や問題行動をおさえる意味で、ご本人にとって穏やかな生活をするのが重要になります。

周囲は、その人の世界に合わせた対応をすると良いでしょう。

- 安心や心身の充足（喜び、やりがい、自信）、を大切に
する。

対応の基本

- 問題となっている行動(周辺症状)の頻度、場面、パターン、背景を掴み、不安や心身のストレスをなるべく減らしましょう。
- 適切なケアをしても周辺症状が治まらないときは、医師と相談して、本人の心身を休ませたり、薬物の調整などが必要な場合もあります。

認知症になっても暮らせる町

地域包括ケアシステムの2本の柱

1. 地域住民主体 Community-based Care

2. 予防—医療—介護 Integrated Care
かかりつけ医が最前線

住民とともに「限られた資源のなかで」

聞いていただいて
ありがとうございました。

松原六郎

